



拍手するあなたも審査員

コンチェルト

コンクールニュース Vol.10

2005.12.1

インタビュー アンドレアス・ヤンケさん(第2回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門第4位)

～ 練習、練習そして演奏、お客さまの反応が返ってくるとすごいや甲斐！ ～



笑顔で応答のヤンケさん（SIBC事務局会議室にて）

— ヴァイオリンを始めたきっかけは何ですか？

ヤンケ：わが家は音楽一家で、両親もピアニストで、一番上の姉がピアノをやっていて、次の兄がチェロをして、僕は3番目なんですけど、楽器何が残っているかということで、それがヴァイオリンで、始めたのが3歳の時でした。でも全く記憶がないんです。気がついたらヴァイオリンを握らせていられたみたいなんです。きっかけというよりは自然のなりゆきで、戻りは音楽ばっかでしたから。

— 最初のプロフェッショナルな演奏を聴いてですか？

ヤンケ：覚えてません。でも、なんですか、鈴木メソッドですか、あの本を使ってやり始めたんです。だから多分最初に聴く曲のキラキラ星かなんかでしょうね。

— 現在、お父さんが音楽家、またはお母さんがお母さんですか？

ヤンケ：特別にこの人というのではなく、ころころ変わるんです。その時聴いている曲とかで変わってきます。無理していけば好きなのはドイツ音楽ですね。ベートーヴェンとかブラームスとかです。ロシアものに凝っていた時もあるって、チャイコフスキーと

カシオタコーヴィチです。最近はバルトークなんか聴いて迷っています。絶対この作曲家とかこの曲というのではないです。

— ご家庭みなさんで楽器をされるんですが、お家で合奏などされるんですか？

ヤンケ：します、します。ピアノは特に弾いてもらいますしピアノソロとかピアノカルテットを演奏する時は僕が4種の有者のどちらかがピアノを弾きます。

— 楽器をいっしょで、お父さんといっしょで練習はありますか？

ヤンケ：小さい頃から一緒に弾いてきたので、他の人と違って相手は何を考えているか、どういう音楽をしたいかというのは、もう読み付いちゃっているのでやり易いですよ。もう、あんまりしゃべらなくても相手のやりたいことが分かって、それに合わせるのが即座にできます。兄弟でそういうことができるのはとても幸せです。

— そのお父さんといっしょで練習は、コンダクターの役ですか？

ヤンケ：僕じゃないですね。種々の演奏は時ですかね、1番上ということもありまして。

— お母さんの演奏は聴いてるんですか？ ドイツで練習ですか？

ヤンケ：ソロよりは室内楽が多いですね。僕と妹ともよくデュオで弾いています。主に活動はヨーロッパです。

— 活動の中心はどこで活動していらっしゃいますか？

ヤンケ：今ザルツブルグに住んでいます。実家はミュンヘンで、電車で1時間半、すぐ近いので週末だけミュンヘンに行きます。ザルツブルグに居る時は大学が8時に開くので8時に練習を始めようとする時間に行かなくて、まづコーヒーでも一杯飲んでからと思って行く友達に会って2時間おしゃべりをしてしまいます。そんなことがしょっちゅうです。で、講義があったり、レッスンが入っていたりで過ごすのですが、一日が終わって夜は何人かで飲み会にいったりします。

— お父さんの演奏は聴いてるんですか？

ヤンケ：ちがう話しますが、やっぱり音楽の話ですね。でも、全然関係ないサッカーの話なんかしたりします。(次頁へ)

— お友達の半には外国で活動をしている人がいますが、マラケシュさんは回数も多いと思いますがこの辺が多ですか。

ヤンケ：います。ドイツ、オーストリアが多くそれほだ遠出することは少ないです。僕はあまり旅行が好きじゃないです。

— 休日はどうですか？

ヤンケ：普通の人のような休日はないです。予定のない日でも練習は毎日6時間しなければなりません。だから練習してテレビ見て、友達と会ったりします。練習は休むことができないので、何もしない休日というのはないです。

— ヴァイオリンの他に練習しているものがあれば教えてください。

ヤンケ：熱中まではいいないけど、サッカーですね。自分ではしないんですが、ドイツはサッカーの国ですから。特に地元のバイエルン・ミュンヘンが好きです。また最近、友達とチェスを始めました。最近ハマっています。すごく弱いんですが、同じくらいの実力の友達とするのは楽しいです。おもちゃのチェス盤を持ち歩いて時間があるとやろうということがになります。

— 仙台で印象に残った場所、食事、食べ物、ハブニングなど教えてください。

ヤンケ：日本人の友達には仙台に行くなら牛タンを食べてほしいといわれるのですが、食べてないです。あれって牛の舌ですよ。ちょっと抵抗がありますね。ほんとに美味しいのかと思ってます。場所はといってもどこにも行く時間がないので印象に残っているのはやっぱりコンサートホールですよ。会場とホテルと駅ぐらいいちか知らないです。ハブニングねえ、ハブニングですか、コンクールの2次予選の結果の後に参加者何人かで飲んだんですけど、その中の一人がすごく酔っぱらってしまって、とても印象に残っています。名前は伏せときますが、ちょっとびっくりしました(笑)。ファイナルに残った6人もすごく仲良しで、コンクールいろいろ受けて来ましたけどここほどお互い気が合うというか、今まで少なかったことです。ブリュッセルのコンクールを受けてきたんですが、あそこのファイナル12人残って、1週間シャットアウトされて同じ所に住み込んで、1週間過ごしてそこでもみんな仲良くなったのですが、普通のとこと顔を合わせることも少ないですし、ここは最初から大変気でした。

— ニーホで初めて出会った人がいかに好きですか？

ヤンケ：それはそうです。でも大体コンクールで会う人って同じ人が多いんです。仙台で会った人にブリュッセルでも会い、おつまた会ったって感じですよ。

— 友達がたくさんいますか？

ヤンケ：でも、僕はライバル意識はないですね。コンクールは競争の世界ですが、いろんな面が重なって結果になるので、何がなんでも1位を取るために来るというわけではないです。

— 昨年の第2回コンクールで出場券としてみて、今回からどうにコンクール出場券としての気持ちの準備や対応の仕方など話してください。

ヤンケ：違いはありますね。コンクールで結果は気にしないといってもできるだけ良い結果を得たいわけですからプレッシャー、

重圧感があります。それはコンサートとは比べものにならないです。特に審査員の先生達を気にして、技術的なミスがないように勝手に固くなってしまいますが、その点コンサートの場合、楽に弾けますし舞台上演奏を楽しめるということがあります。

— 今によって楽が楽でなくなりますか？

ヤンケ：ただ、かえって楽になりすぎると集中力がなくなって、気の抜けた演奏になってしまいます。その辺のバランスというのが難しいです。



応募も積極的な日本選手

— 自分の練習の時間感について教えてください。

ヤンケ：ヨーロッパと比べて反応がおとなしいんですが、すごく親身になって演奏を聴いてくれる気がします。向こうでコンクールとかなると演奏はどうでも、この人は落ちそう、この人は出そうと自分で発表してその結果を比べてそれが楽しいから来るみたいなのが多いです。ここはコンクール関係なしに、それぞれの参加者を演奏者としてきちんと見てくれます。みんな気軽に声をかけてくれて、メッセージをもらって、あれはとても嬉しかったです。やっぱり演奏するかざりお客さんに気に入られるかというは自分の中では大事なこと。練習して努力してきた、お客さんの反応が返ってくるってすごいやり甲斐を感じます。

— これからの目標を教えてください。

ヤンケ：これというのはまだで、これから勉強して学生のうちにいろいろ試して、やっぱりソロもやりたいですが、今は室内楽も楽しいのでやりたいです。オーケストラで弾くのも好きです。ソロでは味わえないシンフォニーとか迫力がありますし、将来ヨーロッパのどこかのオケに入れたらと思います。まだ先の話ですが、

— 最近2回分の練習、ボランティアにメッセージをお願いします。

ヤンケ：去年このコンクールに来て、今までいろんなコンクール受けてきた中でもお客さんもすごく温かみがあって、またボランティアはいろんな面で親身になって世話してくれて、演奏に集中することができました。前回も、また昨日も弾かせてもらって特別な雰囲気ですごく楽しい舞台になりました。機会があればいつでも来て弾かせていただけたらありがたいなと思っています。

— またいろいろな機会があれば是非お越しください。

昨日、仙台市美術館116周年記念のコンサートを誘われてお披露目のところ、今日はありがとうございます。(三)

仙台国際音楽コンクール出場者の近況

仙台国際音楽コンクール出場者会が、世界各地のコンクールで活躍しています。心強いです。今後の成長が楽しみです。

- ◇ **ジュゼッペ・アンドロロ** (伊)
(第1回ピアノ部門第1位) 第55回フェルッチョ・ブノーニピアノ国際コンクール第1位、同年に最優秀モーツァルト協奏曲演奏者、最優秀ブノーニ作曲演奏者および最優秀実用ピアノ演奏者にも選ばれた。
- ◇ **イ・デンサン** (韓)
(第1回ピアノ部門第2位) 第8回ケルン国際ピアノコンクール第1位、同年にケルンWDR放送管弦楽団オーケストラ賞、およびスカルラティ特待賞を受賞。
- ◇ **有希・マズエラ・ヤンケ** (日)
(第2回ヴァイオリン部門第6位) 2005年ヨーロッパ国際ピアノ&ヴァイオリンコンクール ヴァイオリン部門第6位入賞。
- ◇ **清水 あや** (日)
(第2回ヴァイオリン部門出場) 第74回日本音楽コンクールヴァイオリン部門第2位入賞。

♪♪ 私の聴いた音楽会 ♪♪

安永敬・市野あゆみ・石坂田十郎・西江辰郎 演奏会

2005年8月2日 仙台市青年文化センターコンサートホール

すばらしいコンサートに行った帰り、そっと静かに余韻を味わいたい時があります。この日の演奏会もそうでした。気持ちがあくわいでゆったりしながら、胸の中が熱くなる感じ。というのも彼らがとてもリラックスした様子で演奏していたからかもしれません。まるで本当の家族のようでした。ベテラン二人のゆるぎのないテクニクが、クラシック界の頂点を担う二人の若手プレーヤーを盛り上げ、本物がもたらす満足感というものを体験することができました。とりわけ、市野さんの音には古い教会に差し込む光のような崇高な響きを感じました。(横)

対決!! ダブル・コンチェルト 仙台ドリーム・マッチ

2005年10月31日 仙台市青年文化センターコンサートホール

プロローグ曲はプロコフィエフ、2台のヴァイオリンのためのソナタ。私にとって初めて聴くこの曲は二人のそれぞれの音の特質が際立ち、ぶつかり合い、まさに対決の様を呈す。聴く毎にも、演奏者の緊張感が伝わってくる演奏となる。その後の2曲はニコラさんはピアノのロベックさんとは近い、持ち味を生かし息の合った演奏で、前曲とはうって変わった落ち着いた響き、情緒あるヴァイオリンの音色を響かせ詩的なメンデルスゾーンを表現。対するルセグさんはピアノは(中川さん)彼の持ち味とするシャープな切れ味、音色でコンクール時より一段と磨きがかかったゆるぎないテクニクでショパンを演奏。私達の期待に応えた。仙台フィルの音楽司重泰&五重奏のサポートが華を添える。(西)



高田匡隆 (第2回ピアノ部門第2位) &

仙台白百合学園中学校高等学校オーケストラ ジョイントコンサート

2005年10月15日 仙台白百合学園ジュニア・オーケストラ

第143回仙台市芸術祭の一環として、ジョイントコンサートが開催された。仙台市民にとって高田さんのピアノ演奏は昨年6月の青年文化センターでの第2位の栄冠に輝いた時より1年余、黒のスーツに身を固めた高田さんは今回ソロでハイデンとベートーヴェンのピアノソナタを華麗なタッチで演奏。ソロを弾く高田さんの渾身の演奏に聴衆は聴き入った。後半は80余名のオーケストラをバックにベートーヴェンのピアノ協奏曲を演奏。オーケストラの爽やかで力強い演奏に高田さんのピアノが見事にマッチし、感動を与えた。まさにピアノの魔術師のような手さばき。高田さんはアンコールにも応え最大限のサービスをして終了した。(長)



東京藝大チェンバーオーケストラ 仙台公演

2005年11月17日 仙台市青年文化センターコンサートホール

ワンコインコンサート、500円で東京藝大チェンバーオーケストラを聴いた。ソリストは白井圭さん、コンサートマスター守屋龍志さん。モーツァルトのヴァイオリン協奏曲 第三番ト長調 K.216、生き生きとした主題を白井さんは実に楽しげに弾いた。カデンツァが素晴らしいかった。白井さん作曲のカデンツァと聞き、彼の才能の幅広さに驚いた。ソリストとして自信に満ちていた。コンサートマスターとしての守屋さんは、指揮者、ソリスト、仲間を信頼し素晴らしい演奏を聴かせてくれた。会場はほぼ満席、ブラボーがやまなかった。(実)

講演会（仙台国際音楽コンクール関連事業）開催される！

去る11月13日(日)、「地域文化を支えるボランティアの力」と題し、NHK解説委員の田村孝子さんを講演会が開催された。会場のエル・パーク仙台ギャザリアーホールにはSIMCのボランティアと一般の方も含め60名近い聴衆、日本および世界各地まで幅広い取材に基づいた実例をスクリーン大画面の映像と共に話され、熱く真剣な時が流れた。音楽、演劇における主催者側の心意気、ボランティアたちの熱意の実情が話された。例えばサイトウ・キネン・フェスティバル松本、しいの実シアター（松江市）をはじめ企業メセナ



講演した田村孝子さん

の例も加えて「ボランティアは自分たちの地域のために何が出来るか、自分が出来ることで参加しよう。金、知恵、時間、力などそれぞれが持っているもので集まれば、動かないものも動かせる」と。そして、芸術の力の何たるか、又その力の強さを説かれた。田村さんの、芸術が生きる力になると信じて欲しいという願いが切々と伝わってきた。(三)



【 Music Cafe & Bar NEVE 】

仙台市泉区住吉台東1丁目3-3 TEL/FAX 022-376-6701
営業時間 11:00 - 17:00 / 19:00 - 23:00 <水曜日定休>

泉区北西部の旧地、銀杏並木のゆるやかな坂を上り、花屋の角を入ってすぐの民家風落ち着いた建物。

静かな笑顔で迎えてくれた「NEVE(ねべ)」のオーナー片倉雅利さん。チャイコフスキーが流れている。60年代レコードのジャケットやセピア色の演奏写真が飾られたお店で、さっそくコーシーをいただきながら、分厚いメニューを見せてもらう。メニューといっても小学生の頃から集めた3,000枚以上のレコードからオーナー自身でMDIに編集した10,000曲程のメニューである。曲名、作曲家名、歌手名から探せる索引も付いている。片倉さんの気持ちは、子どもから高齢者までくつろいでみたいというところから、ジャンルも意識からポップス、映画音楽、ジャズ、そしてクラシックと幅広く収集されていて、いつでもリクエストに応じてもらえる。オーナーは東京出身で50歳までサラリーマンだった。その後、好きなことをしたいと2001年に少し帯の降る所が好きなお店もあって、仙台のこの地を選び開店。第2回SIMCの出場者ヴォイツェフ・ガルボウスキー(ポーランド)さんのホームステイも受け入れられた。彼からは今も日本のお父さんと慕われている。これからも若い音楽家のために協力ながらも支えになればと思っているといわれた。この次は草花に囲まれたテラスで好きなモーザルトでも聴きながらお茶をいただくと思う。尚、定休日でも予約相談に応じてますとのこと。(三)

コンサートのご案内 第2回コンクール1位の船山栞花さんとコンクール審査員を務めるジュラルム・ブルーさん
仙台フィルの特別演奏会に出演します。皆さま、この機会をお見逃しなく!!

◆第208 固定期演奏会

2006年2月10日(金)・11日(土) 19:00 開演 (18:30開場)

指揮 山上洋一 ヴァイオリン 船山栞花

<プログラム>

ブラームス 悲劇的序曲 op.81

ブラームス ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.77

ブラームス 交響曲第4番 小長調 op.98

●会場 仙台市青年文化センター コンサートホール ●入場料 (全席指定) A:4,200円 B:3,700円 学生:2,100円 Z:1,500円

●お問い合わせ 仙台フィルサービス Tel.022-225-3834

◆第209 固定期演奏会

2006年3月10日(金)・11日(土) 19:00 開演 (18:30開場)

指揮 外山雄三 ヴァイオリン ジェラルム・ブルー

<プログラム>

平塚真の勇 交響曲「秘」

バルトーク ヴァイオリン協奏曲第2番 BB.117

ブラームス 交響曲第2番 二長調 op.73

第3回仙台国際音楽コンクールSIMC ヴァイオリン部門 2007.5.20 日 - 6日 土 21:00 開演 2007.5.10 日 - 25 日 土

編集後記 この秋は本演奏会が続き、ボランティアの仲間も増え、活動の連続。第3回SIMCへの続いた活動と共にクラシック音楽を愛し7年でした。またる2006年は本番への準備も大詰めの時、市民の皆様とSIMCを広く知ってもらえるよう努めます。お

ボランティアの力 ー はまり役 過役がちり ボランティア ー (長内)

発 行 仙台国際音楽コンクール(SIMC)ボランティア広報宣伝サポート 問合せ 仙台市民文化事業団コンクール推進課
(仙台国際音楽コンクール事務局) TEL 022-727-1872 e-mail info@simc.jp URL <http://www.simc.jp/>